

宇都宮市立瑞穂台小学校 第5学年児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で学校の宿題をしている」という質問項目に肯定的回答をした児童の割合は、9割程度であり、市の平均よりも上回っている。

●しかし、「宿題の学習は行っていても、計画を立てて行うことや授業の復習をしている」という項目に対しては、「はい」「どちらかといえばはい」と答える児童が、約6割程度で県よりやや低い。また、家庭での学習時間も1時間以内と答える児童が多くいる。家庭学習の習慣にできるよう、保護者と連携を密にしながら児童が1時間以上の家庭学習に取り組めるようにしたい。

●「1か月に、何冊くらいの本を読みますか。」の質問には、1冊も読まない児童が11%おり、読書に親しむ機会を増やすしていく必要がある。

○「しょう来るために大切だと思いますか」という各項目の質問に対し、肯定的な回答をした児童の割合は市の平均を上回っている。児童の興味・関心が今後も高められるよう指導をしていきたい。

●「だれに対しても、思いやりの心をもって接している」の質問に対して、肯定的な考えが県よりも下回っているので、人権教育の視点もふまえながら今後も思いやりの気持ちが育つように指導をしていきたい。

○「ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある」の質問では、多くの児童が肯定的に答えている。目標に向かってやり遂げることで次につながっていく傾向があるので、学習面でも意欲が高まるように指導をしていきたい。

宇都宮市立瑞穂台小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関する調査結果
基本的な学習内容の定着	・ねらいや振り返りで、授業の学びを自分の言葉で言語化し、学習内容の定着を図る。 ・朝の学習支援タイムで、基本的な学習内容の習熟を図る。	4・5年生ともに、知識・技能は県や市の平均をどの教科も上回っており、基本的な学習内容が定着している児童多かった。しかし、「授業の最後に、学習したことをふり返る活動をよく行っている」の質問に対して、5年生の肯定的回答が57.5ポイントと低かった。
自ら問い合わせ、学ぼうとする意識をもつことができる指導の工夫・改善	・単元を見通して、身に付けた知識・技能を活用して学びが継続できるような単元の展開を工夫する。 ・各教科の「見方・考え方」に着目させ、解決の手がかりを意識させるような展開を工夫する。	「できるだけ自分一人の力で課題を解決しようとしている」の質問に、肯定的に答えた児童は、4年生については県の平均より多かったが、5年生は低かった。
主体的・協働的に学び合うための授業の工夫・改善	・学びの見えるノート指導を行い、課題を解決するための過程を整理させる。自分の考えを伝えるために、ノートを活用させる。 ・課題に迫るための学習形態を取り入れる。	「グループなどでの話合いに自分から進んで参加している」の質問は、肯定的回答が4・5年生ともに県の平均を上回っていたのに対し、「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の質問は、4年生は県の平均を0.5ポイント上回ったが、5年生は4.6ポイント低かった。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
教科に関する調査から、条件を満たしながら自分の意見を書いたり、資料を選んだりする問題の正答率が、全体的に低くなっている。	条件を正しく理解し、それを活用しながら問題解決していく活動の充実	各教科を通して、指定された条件を全体で正しく理解させる。それを違う問題で生かすとどうなるかを考え、ペアなどの形態で条件をもとに話し合わせるなど、条件の項目ごとに吟味させる活動を取り入れる。また、書くことに慣れていない児童には、例や友達の考えを取り入れるなど、時間をかけて慣れるようにさせる。